

中国と欧州を結ぶ国際定期貨物列車「中欧班列」による貨物輸送は近年増加しています。今後も更なる成長が見込まれており、今号ではその現状をお伝えします。

### 1. 「中欧班列」運行本数の増加

中国と欧州を結ぶ「中欧班列」は、2017年の年間運行本数約3,000本に対し、2018年1月から3月の3ヶ月間で既に1,000本を超える運行本数となりました。中国政府は2018年の年間運行本数5,000本を目標に掲げており、今後も輸送量の増加が見込まれています。増加の背景として、中国国内34都市に起点が、欧州12カ国34都市に終点が設置されたため、利便性が向上したことが挙げられます(2017年10月時点)。



AFP/アフロ

現在は主に自動車部品の輸送に鉄道が利用されていますが、今後は電子部品・食品・衣服・化学繊維等の様々な貨物の鉄道輸送が予定されています。また、中国政府は長期国家戦略として「一带一路」構想のもとに鉄道敷設を進めており、鉄道と道路の整備に伴い、中国からタイ、中央アジアから中東、中東から欧州といった新ルート確立も進めています。

### 2. 「中欧班列」を利用するメリットと課題

鉄道輸送のメリットは、短期間でコストを抑え、かつ正確な輸送を実現できることです。欧州から中国までは、海上輸送では2カ月を要するところ、鉄道輸送では約2週間で目的地に貨物が到着します。また、航空輸送より輸送費用を抑えつつ、到着時間の見通しが立つため、鉄道輸送へのモーダルシフトが期待されています。

一方で、「国境での貨物の積替え」が課題となっています。中国とロシア、中央アジアと欧州では鉄道の軌道幅が異なるため、積替えが必要になります。例えば、現在は中国から欧州まで輸送するには3回の積替えが必要となり、1編成に対して1.5時間の作業時間が生じています。今後、設備の機械化や手続きの簡素化を進めることによって積替え時間が短縮される見込みです。

### 3. 当社の取り組み

鉄道輸送で想定される様々なリスク等に対し、弊社では衝撃記録計による輸送ルートへの分析や人間工学によるロスプリを提供しています。また、今年度はアジアでの物流調査を複数予定しており、下期に報告会を兼ねたセミナーを実施予定です。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



(参照元)

・JOC.com「Poor Asia-Europe rail infrastructure slows cargo, hampers growth」(最終閲覧日:2018年6月5日)

[https://www.joc.com/rail-intermodal/poor-asia-europe-rail-infrastructure-slows-cargo-hamper-growth\\_20180511.html](https://www.joc.com/rail-intermodal/poor-asia-europe-rail-infrastructure-slows-cargo-hamper-growth_20180511.html)

・CHINA RAILWAY「Number of CHINA RAILWAY Express Trains Operated in 2018 Reaches 1000」(最終閲覧日:2018年6月5日)

[http://www.china-railway.com.cn/en/internationalcooperation/internationalexchangeandcooperation/201804/t20180411\\_70567.html](http://www.china-railway.com.cn/en/internationalcooperation/internationalexchangeandcooperation/201804/t20180411_70567.html)

・人民網「中欧班列」の2017年度運行数は3673本、過去6年の総数上回る(最終閲覧日:2018年6月5日)

<http://j.people.com.cn/n3/2018/0123/c94475-9418589.html>

・国建協情報 2018年1月号(No.864)掲載【要約版】「一帯一路」構想における中国の五大国際インフラ建設プロジェクト  
(最終閲覧日:2018年6月5日)

[www.idi.or.jp/yoyaku/201801\\_864.pdf](http://www.idi.or.jp/yoyaku/201801_864.pdf)

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

[http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine\\_site/index2.html](http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html)